

科目名	健康科学特殊研究	担当者	イズミ 泉 リュウタロウ 龍太郎	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>1. 医療分野で標準とされる「エビデンス」について、その基本的な考え方と、個々の事例に適用する際の課題について学修することを目的とする。</p> <p>2. 「健康」の基礎となる「生命活動」について、生態系と生命体個体の両方の観点から考察することを目的とする。</p> <p>1) 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。</p> <p>2) 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。</p> <p>3) 謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>1. 医療分野で標準とされる「エビデンス」について、その原典となる考え方にに基づき、個々の事例に適用することを修得する。</p> <p>2. 「生命活動」の基本的な原理について、自分自身の考え方を創造する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】(知識・技能)</p> <p>医療分野における「エビデンス」が作成されるプロセスとその適用方法を説明できる。</p> <p>『生命とは何か』という問いに対し、科学的な知見と根拠に基づいた、自分自身の考えを説明できる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】(自主研究・レポート作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学修を行う(課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)。 図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。 <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い(20 時間)、それに対する考え方をレポートとしてまとめる(10 時間)。manaba folio を通してレポートの推敲を行い、最終稿を仕上げる(15 時間)。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材 1 のレポート課題(1)の草稿は 7 月末、課題(2)は 8 月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も 9 月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材 2 のレポート課題(1)の草稿は 11 月中旬、課題(2)は 12 月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も令和 4 年 1 月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	75%	レポートの内容に関し、取り上げた題材の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性等を評価する。
	観察記録	25%	レポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。
履修者への要望	<p>1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの校正(目次案など)について、メールなどで連絡相談して下さい(izumi.ryuutarou@nihon-u.ac.jp)。</p> <p>2) 題材の選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークな題材を歓迎します。</p> <p>3) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。</p> <p>4) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。</p> <p>5) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 日本医療機能評価機構 教材名： 『医療情報サービス Minds (マインズ)』 http://minds.jcqh.or.jp/s/about_us_overview
	厚生労働省の委託の下に、診療ガイドラインの情報を提供している。但し、一部のガイドラインは有料、または作成した学会等への会員登録が必要となる。また必ずしも全てのガイドラインを網羅しているとは限らない。
参考図書	小島原典子, 他編 『Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2017』 公益財団法人日本医療機能評価機構 https://minds.jcqh.or.jp/s/guidance_2017_0_h
履修上のポイント	医療分野において言われる『エビデンス』がどのようにして検証されるのか、またそのエビデンスに基づいたガイドラインを、個々の事例に適用する際の考え方について学修する。
レポート課題 1	特定の診療ガイドラインを取り上げ、そのガイドラインが作成された目的と経緯、作成時のポイント等をまとめること（注：ガイドライン自体の解説ではない）。 ガイドラインとしては、例えば厚生労働省の『健康づくりのための身体活動基準 2013』や、日本看護協会の『夜勤・交代制勤務に関するガイドライン』のようなものでも良い。
レポート課題 2	上記のガイドラインを、個々の事例に当てはめた際の課題を論ずること。異なるガイドライン間での方針の相違を取り上げて良い。 該当する事例を思い当たらない場合は、連絡して下さい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 東京大学生命科学教科書編集委員会編 教材名： 『現代生命科学 第3版』（羊土社、2020年3月） ISBN 9784758121033 2,800円+税
	生命科学の基礎的な知識に関し、最新の情報を基に簡潔、かつ網羅的に記述された最良のテキスト。より詳しい内容を希望する場合は、『理系総合のための生命科学(第5版、2020年3月)』でも可。
参考図書	福岡伸一著『生物と無生物のあいだ』（講談社現代新書、2007年）ISBN 978-4-06-149891-4 880円+税
履修上のポイント	「生命とは何か」という問いに対し、生態系という観点と、生命体個体に関する視点から、その答えにアプローチする方法論を学修する。
レポート課題 1	ヒトも生態系の一部という観点から、共生する微生物（腸内、皮膚、あるいは環境）、または生物の中から一つを取り上げ、健康や疾患との関連性について論じること。
レポート課題 2	ヒトを含めた生命体、あるいは細胞の機能を理解する上で、生命体を、それを構成する臓器・組織、細胞内小器官や生体高分子等の部分・物質レベルに分割して理解しようとする、いわゆる「機械論的な還元主義」に関し、その有用性と限界、及び健康と不健康状態（疾病を含む）との関連性について論じること。合成生物学や人工生命の観点を取り入れても良い。 正解の無い哲学的な課題でもあるが、観念論に終始せず、生命科学の知見を踏まえ、なるべく具体的な事象を取り上げた上で、自分自身の考えを論じて下さい。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材 1 の学修；全般的な「ガイドライン」作成の目的と手順について
第 3 回	課題として取り上げる題材（ガイドライン）に関する学修
第 4 回	取り上げた題材の全般的な背景に関する学修
第 5 回	取り上げたガイドラインが作成された背景と経緯に関する学修
第 6 回	取り上げたガイドラインの、実際の適用状況に関する学修
第 7 回	取り上げたガイドラインの、今後の課題に関する学修
第 8 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 2 の学修；ヒト・生命体の細胞レベルでの学修
第 4 回	基本教材 2 の学修；ヒト・生命体の個体レベルでの学修
第 5 回	基本教材 2 の学修；ヒト・生命体の集団レベルでの学修
第 6 回	基本教材 2 の学修；生命体が相互作用する、生態系レベルでの生命活動の学修
第 7 回	生命活動に対する、還元主義の適用や、階層性等に関する学修と考察
第 8 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証